

Maebashi

聖なる口コミで広げたい

Vol. 86

この町
この教会



清野使門牧師



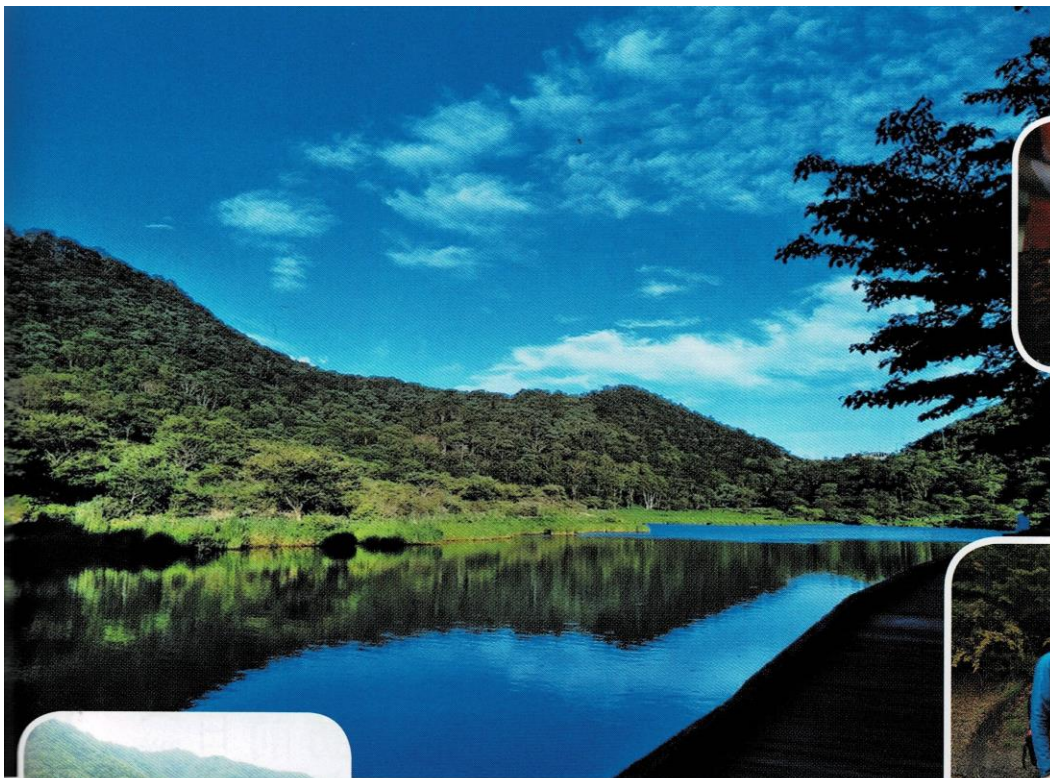
【群馬県前橋市】
日本聖契キリスト教団
前橋聖契キリスト教会を
訪ねて

前橋市は群馬県の真ん中に位置し、冬は赤城山から下りてくる「上州からっ風」と呼ばれる北風が吹く。夏は四十度近くにまで気温が上がる、なかなか激しい気候の場所。「隣の高崎市は賑やかだけど、前橋はのんびりしたところに入っています」とは、前橋聖契キリスト教会の清野使門牧師。

教会は一九六三年、宣教師がこの地に立てた「前橋クリスチャンセンター」が前身でその後数名の宣教師、牧師が立てられ二〇二六年に清野さんが着任した。「小学生の時、洗礼は受けたけれど明確にイエス様に出会ったのは二十歳の時。自分の罪、そして既に赦されていることを知りました」

自分の人生を神様のために、と広い意味の献身の気持ちをもった。二十代は働きつつ、当時牧師不在だった母教会でスタッフのように奉仕。三十一歳の時、東京・目黒にある聖契神学校へ。「自身の魂の渴きを感じて入学した」という。学ぶうち、牧師への思いが強められ、卒業時に声がかかった日本聖契キリスト教団で働くことになった。

赴任した当初、礼拝出席は十人程度。



▲群馬名物その1 焼きまんじゅう

▼清野さん一家
群馬名物その2 東洋のナイアガラ
名勝「吹割の滝」で



▲赤城山の名所、バイブルキャンプから歩いて行ける^{がくまんがち}「寛満淵」。小尾瀬とも呼ばれる湿原

◀教会は上越線・両毛線の新前橋駅から徒歩約10分。土日祝日にSL機関車が停まる。日曜日の午前10時14分、新前橋駅を発車するSLを見てから教会に。ちょうど礼拝に間に合う？



ワンチャーチのようす



13年ぶりの洗礼式 赤城山の小沼で

いちばん若い人が四十代。清野さんはコンサートや集会など教会で行っていた対外的なことをやめた。はじめの二、三年は「人を誘わないで」と皆に伝えた。

「誘わない伝道教会（笑）。イベントや特別集会ではなく、みことばが語られて人の心が養われる、賛美に情熱がある、真実な交わりがある。そういう教会なら自然に人を誘いたくなると思いました」

最近、教会員が変わってきたと感じている。礼拝への思いが成長し、教会を喜んでいようすが伺える。昨年、二人の洗礼者が与えられた。二〇〇七年以来、十三年ぶりのことだ。

「以前は一回来たらそれっきり、ということも多かったけれど二年前くらいからとどまる率は大幅に高くなった。礼拝に力があるからだと思う」

礼拝に集中してきたが、最近取り組んでいることがある。それは地域教会の一致だ。近隣の五つの教会で「ワンチャーチ」という賛美と祈りの集まりをするようになった。キリストの体はもともと一つ、という意味でこの名前に。

「賛美に渴いているクリスチャンが多



現在は新型コロナウイルスの影響により
礼拝やワンチャーチ等はオンラインで配信しています

最近の礼拝後の一枚

前橋聖契キリスト教会

〒371-0846 群馬県前橋市元総社町152-184
TEL.027-251-5249



前身の前橋クリスチャンセンター

年に一度の楽しみ。
教会メンバーのお庭でタケノコ掘り



い。賛美と祈りに集中できるようにあえてクリスチャンだけが参加できるようにしています」

会堂がない教会に自分の教会を結婚式や葬儀、特別集会などで使ってもらう、床のワックスがけを他教会の青年が手伝うなど、出会った人たちが互いに協力し合う。

「ワンチャーチに来た人が自分の教会で今までより少し大きな声で歌う、祈ることができるようになる。そんな人たちと一緒に宣教に向かっていきたい」

清野さんのイメージする教会は「隠れ家レストラン」的な場所。

「隠れ家レストランは口コミで広がります。宣伝していないけれどそこに行けば美味しいもの（＝礼拝）が味わえる。キリストの現実を体感した証しのある教会。教会の中でも外でも存在できる人になってほしい。そして聖なる口コミができる一人一人であればいい」

清野さんは穏やかな雰囲気の人だ。でも、内側に熱いものがある。自然豊かでのどかだが激しさもつ前橋の気候とどこか似ている。清野さんらしい宣教を広げてほしい。（田口祐子）